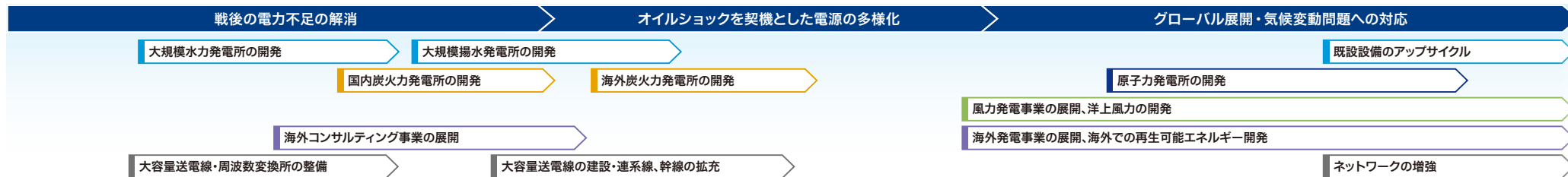


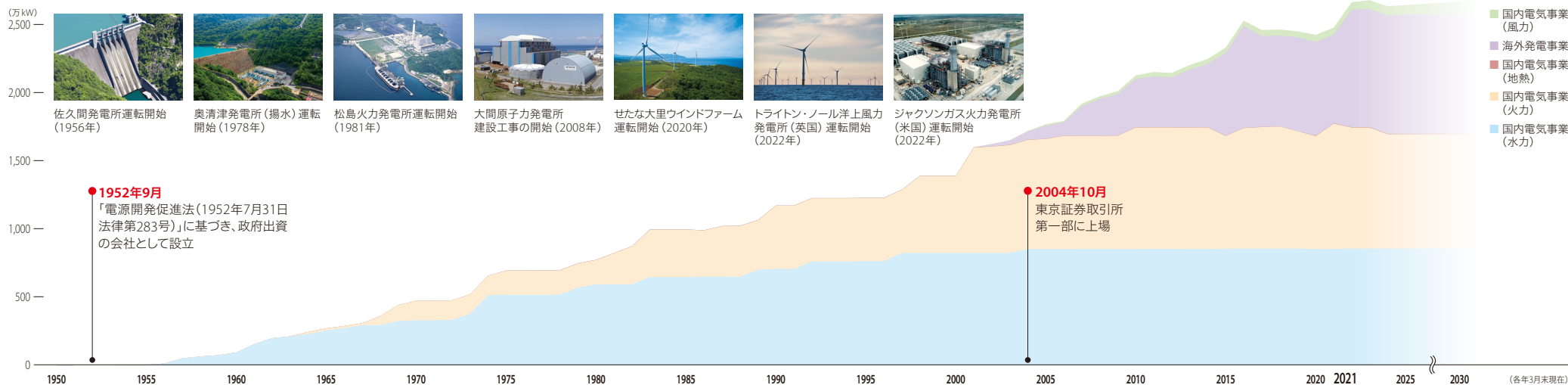
J-POWERグループの沿革

J-POWERグループは、戦後の日本の電力不足を克服するため1952年に政府により設立されて以来、水力発電および火力発電による電力の卸売事業を展開するとともに、日本各地を結ぶ基幹送電線による電力の託送事業を行い、全国大の電力の安定供給に貢献してきました。2004年には、東京証券取引所第一部（現プライム市場）に上場して完全民営化し、成長が見込まれる海外での発電事業や、風力発電や太陽光発電、地熱発電といった再生可能エネルギーの開発など、時代ごとに異なる電力ニーズに応じて成長してきました。現在の電源構成はバランスのとれたポートフォリオとなっており、2050年カーボンニュートラルを目指して柔軟に対応していきます。

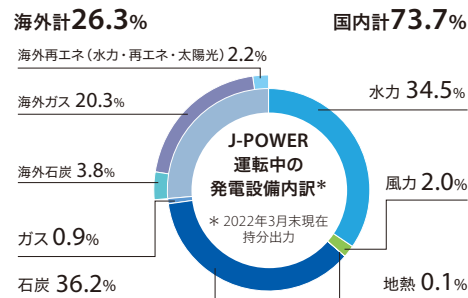
時代の要請



発電設備容量の推移



バランスのとれたポートフォリオ



送変電設備 (2022年3月末)

送電設備 (巨長)	2,410.1km
交流送電線	2,142.9km
直流送電線	267.2km
変電所 (出力)	4カ所 430.1万 kVA
周波数変換所 (出力)	1カ所 30万 kW
交直変換所 (出力)	4カ所 200万 kW

(注) 連結子会社および持分法適用会社の設備を含む
合計出力は各プロジェクトの総出力に当社の持分比率を乗じて算出
送変電設備は電源開発送変電ネットワーク(株)(J-POWER送変電)が運営

